

公共交通の安全 分科会報告

「分科会テーマ」公共交通の安全と規制緩和の影響

参加団体： 19 団体

参加者： 34 名（実行委員含む）

公共交通機関の事故が頻発する折、全国消費者大会では今回初めて「公共交通の安全」分科会として位置付け、「公共交通の安全と規制緩和の影響」というテーマで、34名の参加を得て開催しました。



講演をいただきました。

基調講演を受けたパネル討論では、最初に規制緩和が安全輸送に与えている影響として、鉄道・航空・バスの現場から報告をいただきました。JR 東京車両センターの小池敏哉さんからは、多発する首都圏における輸送障害の実態と安全運行のための適正要員配置について、日本航空羽田整備業部の木俣勝さんからは、航空事故は多数の犠牲者を伴うが、安全確保のために重要な航空機の整備を自由化の中で経費削減から海外に委託していることへの不安、小田急交通の小林隆さんからは、規制緩和による過当競争の激化と「ツアーバス」という新しい営業形態に伴う過酷な労働者の実態など、それぞれの現場からの報告がありました。

その後、安藤教授と消費者として東京都地域消費者団体連絡会の奥田明子さんが加わり、5名によるパネル討論を行いました。討論では、奥田さんが現場の実態を聞いた感想を述べた後、バスの長距離運行と運転手 2 名配置、航空の自由化と安全との関係、安全安心がキーワードになっている今日、現場から安全を確保する為に消費者との連携について意見交換が行われました。最後に安藤教授がまとめを行い終了しました。

冒頭、埼玉大学教授の安藤陽さんからは、①公共交通における最近の状況～交通事業においてなぜ事故は多発するのか、②原因としての規制緩和政策、③企業の社会的責任（CSR）、④運輸安全法と政府の監督責任、⑤運賃・料金水準と利用者・消費者の意識、⑥安全・安心な公共交通を求めて、という 6 つの柱に沿って基調